

## 第6回 平成10年度 受賞者

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

八戸地方えんぶり連合協議会（青森県八戸市）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

出雲神話と神楽フォーラム実行委員会（島根県大東町）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

山本 幸太郎（和歌山県御坊市）

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

片桐 登（長野県大鹿村）

### 受賞者 プロフィール

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第1類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

八戸地方えんぶり連合協議会（青森県八戸市）



青森県八戸市及び近辺で、毎年2月、4日間行われる豊年予祝の田植え踊り。「えんぶり」とは田んぼを平に搔きならず農具のことで、これは「ゆり動かす」という意味がある。踊りは、稲作の順序に沿ってその所作を、大きな烏帽子を被り（写真参照）色々な採り物をもって家々を廻り、新春を祝福する同地方の代表的な伝統芸能である。「えんぶり」は、現在、40数組のグループに伝承、保存されており、八戸市中心街で開催される「えんぶり」行事には県外からの観光客も多く、同地域の観光・商工業の振興に大きく貢献している。

地域伝統芸能大賞 活用賞（第2類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

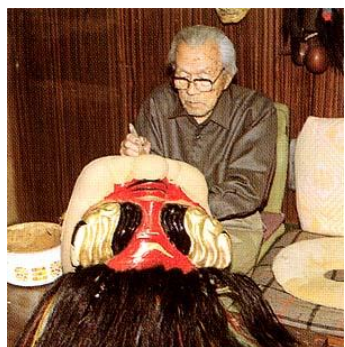
出雲神話と神楽フォーラム実行委員会（島根県大東町）



島根県大東町には郷土の伝統芸能として高い評価を受けている海潮神代神楽・佐世神楽などがある。昭和63年来、この地域伝統芸能の育成と、地域活性化のために、神楽の博物館と劇場である「古代鉄歌謡館」と、神楽の伝承館としての「神楽の宿」を建設。この間、平成9年までに「出雲神話と神楽フォーラム」を10回開催した。このフォーラムには町内5社中と招待社中の神楽の競演がある。また、出雲神話や神楽についての講演を重ねている。このイベントには毎回県内外から多くの神楽ファンが訪れ、神楽の継承発展のみでなく、地域観光及び商工業の発展にも大きな役割を果たしている。

地域伝統芸能大賞 支援賞（第3類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

山本 幸太郎（和歌山県御坊市）



山本氏（当時94歳）が制作している御坊獅子頭は、同地方最大の賑わいを見せる御坊祭を始め、和歌山県無形文化財指定の由良町「横浜の獅子舞」、美山村「寒川の獅子舞」は勿論、紀州路、特に日高・有田地方で行われる百ヶ所を越える祭礼の獅子頭のほとんどに使用され、同地方の伝統芸能の祭礼を支えてきた。山本氏は獅子頭制作の三代目にあたり、継承後70有余年獅子頭制作に取り組んでおり、県内のみならず全国各地からの注文も多く、その制作技術は全国的に高く評価されている。御坊獅子の獅子頭は、頭は良質の和紙で固め、漆の赤色と黒色とで仕上げるが、その優美で雄大なこと、重量が軽いのが特徴で、愛好家が多い。

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第4類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

片桐 登（長野県大鹿村）



南アルプスと伊那山脈に挟まれ、わずかな平地に村人1600人が住む過疎の村が、大鹿歌舞伎の里である。片桐登氏は14歳で歌舞伎の上演を志し、大鹿村役場に勤めるかたわら、歌舞伎保存会の結成、地元小・中学生の指導等に尽くしている。また、田島子供歌舞伎を始め、全国各地の地歌舞伎の振興のため現地に赴き直接指導し、今日の歌舞伎ブームを盛り上げた功労者とも言われている。同村では春秋二回の定期講演の他、村外でも年間10回に及ぶ公演を行っている。観光客は10万人を越えるまでとなり、民宿の開設や特産品の販売等、地元に必要な経済効果をもたらしている。